

2022 年度学童保育指導員研修新任研修レポート

- 第 1 講義 『学童保育とは・歴史と役割、学童保育指導員の倫理』
- 第 2 講義 『健康・安全・衛生-1- 子どもの受け入れ、健康管理-』
- 第 3 講義 『一日の仕事・打ち合わせ・記録-』
- 第 4 講義 『緊急時の対応・日々の安全と緊急時の対応-』
- 第 5 講義 『健康・安全・衛生-2- 衛生管理・食品管理等日々の衛生-』
- 第 6 講義 『保護者との関係・地域関係機関との連携・保育の役割を果たすために-』

【クラブ】（ 風の子クラブ ） 【名 前】（ 川原郁美 ）

全 6 回の講義で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

新任研修を受講して、普段あたりまえのように行っている業務や子どもとのかかわりの大切さやその意味、自分の保育を振り返って改善して実践していくべき点などを学ぶことができました。また、子どもたちにとって学童保育所が「安心して過ごせる居場所」となり、大人の都合で「いさせられる場所」になってしまわないような配慮をしていきたいと思いました。

第 2 講義・第 4 講義での、静養室（横になれる場所）の確保をすることや、もし救急を要する状況が起きたときにどう対応するのかを自分がシミュレーションし、わかっておくとともに、指導員同士でも共有して確認しておくこと、どの指導員でも対応できるようにしておくことが必要だと強く感じました。子どもの放課後の安全な生活を守るために、どんな場合でも対応できるように、フローチャートを作成したり、マニュアルを作成したりしておくことも大切なことだと学びました。実践に生かしていきたいと思います。また、子どもの出欠確認について、ランドセルのあるなしを見ればたしかに素早く楽には行えると思いますが、違う子どものところにランドセルが入っていたり、そもそもランドセルがロッカーに入っていなかったりするので、子どもの姿を目視で確認して、漏れなく出欠をとり、不備がある場合には、迅速に保護者に確認をとることをこれからも心がけていきたいと思います。公園に連れていくときの対応も同じようにし、人数と該当する子どもの名前両方を把握・確認して出かけるように徹底しようと改めて思いました。

第 6 講義での、保護者との関係づくりの大切さには印象に残ったこと、これから実践していこうと思う点がいくつかありました。1 つ目は、お便りを使って、指導員の思いや子どもたちの生活の様子、学童保育所からの連絡を伝えることです。子どもを預ける保護者はみなさん、大小の違いはあれど不安な思いがあると思います。お迎えのときに様子を伝えるとともに、お便りでいろいろな子どもの様子を伝えることで、学童保育所がどんな場所でどんな子どもがいるのかなどがわかり、安心に繋がると学びました。

2 つ目は、「欠席連絡等の事務的な連絡はメールでも良いけれど、子どもの心のことは、直接話してほしい」と保護者に伝えているということが印象に残りました。子どもの心の状態を保護者と指導員が共有するために、メールではなく直接話すことが大切だということで

した。メールだけでは伝わらないものが、保護者の表情や話し方から見えてくるのだらうと思います。子どもにかかわる大切なことは直接、話をしていこうと思います。

3つ目は、中川学童保育所憲章に掲げられている子ども像のなかの『心から笑える子に』の表現が印象的でした。これまでは『いつも元気な子、いつも明るい子』という表現だったそうです。しかし、いつもそうでなくてもいい。そういられないこともある。だけど心から笑える瞬間がある子になってほしいとの思いから、変更されたそうです。「たしかにそのとおりだ」と思いました。学童保育所で過ごす子どもたちには、いつもいつも元気に明るくいられなくても、心から楽しい、嬉しい、面白いと思えるものが見つけられて、感じられるように生活してほしいと思いました。

そのために指導員として、専門性を高めながら、現場で子どもとともに成長し、子どもの笑顔を守れるようになっていきたいです。